

第 66 回日本臨床細胞学会総会(春期大会) 会 長 挨拶

細胞診、さぁ行こう！次のステージへ

この度、2025 年 6 月 27 日(金)～29 日(日)の 3 日間、新宿・京王プラザホテルにおきまして、第 66 回日本臨床細胞学会総会(春期大会)を開催する運びとなりました。本学術集会は、現地開催を主とし、教育講演・要望講演などは何度もお聞きいただきたくオンデマンド配信を行う予定です。

2024 年 4 月から、子宮頸がん検診として HPV 検査単独法が導入され、細胞診の在り方も大きく変わりつつあります。HPV 検査単独法では、HPV 陽性となった場合に LBC 検体を用いて細胞診が行われることとなります。これまで、細胞診で HPV 感染細胞を見つけようとしてきた我々にとりまして、かなりの方向転換となります。そこで、本学術集会では、HPV 検査単独法を含む子宮頸がん検診における細胞診の診断方法について基本に立ち返り、細胞学会としての指針を示していければと考えております。また、すい臓がんや乳がんにおいては、細胞診は診断だけではなく、摘出範囲を決定するなど、がん治療にはなくてはならないものとなってきました。さらに、ゲノム診断も細胞診に加味され、細胞診は次のステージへ進もうとしています。そこで、本学術集会のタイトルを「細胞診、さぁ行こう！次のステージへ」とさせていただきました。本学術集会では、細胞診に携わるすべての領域で討議を行い、細胞診が次のステージへと飛躍できる足がかりになることを目指しています。

なお、本学術集会中に「Japan LBC 宣言」として、「子宮頸がん検診では LBC 検体を用いるべきである」ということを、日本臨床細胞学会、日本産科婦人科学会、日本産婦人科医会、日本婦人科腫瘍学会、日本婦人科がん検診学会の 5 団体が共同で表明する予定です。また、特別講演として「さかなクン」をお招きしました。さかなクンは東京海洋大学の客員教授でもあり、お魚に関する非常に興味深いお話を伺えるかと存じます。学会中、細胞から少し離れ、皆で楽しむ時間を持ちたいと思います。

会員の皆様方が満足できる学術集会を開催できるよう努めてまいります。多数の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

第 66 回日本臨床細胞学会総会(春期大会)

会長 田畑 務

(東京女子医科大学産婦人科学講座 教授・講座主任)